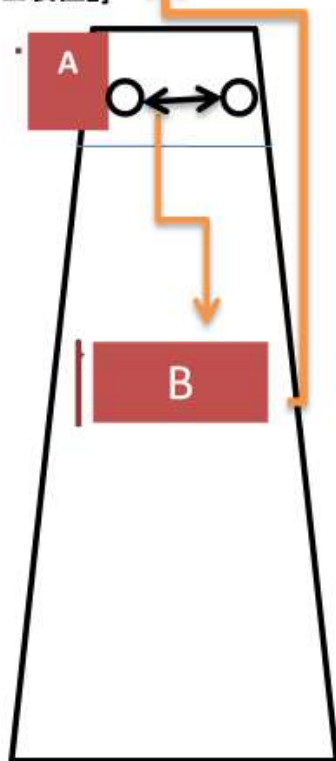


《日本の精神主義構圖：パターン①》

\* A→B → C" ⇔ C2: 後楯・護符(上位概念: 世界/社会/階級等)

◎C2: 後楯・護符(上位概念: 世界/社会/階級等)

OC" [大義名分: 生き甲斐(幕末維新に於ける「國家」の代はり)] / 『安全装置』



『生き甲斐といふ事』P311 & 316】

左圖説明:『日本の精神主義構圖』:パターン③ 879

《利己心(A)を大義名分(C")でごまかす偽善(P316下)》

『日本の精神主義構圖』:パターン③

[大義名分(C")]: 生き甲斐(幕末維新に於ける「國家」の代はり)]

\* 「現実(A利己心)的不満[後めたさの「プラス2(立身出世欲)/マイナス2(日本の民族性)」の利己心A]⇒逃げ處としての個人的自我概念(B: 自己犠牲/他者愛)⇒C" [大義名分: 生き甲斐(幕末維新に於ける「國家」の代はり)] / 『安全装置』/ 自己主人公化/ 絶對的自己肯定] ⇔ C" への護符(C2) [上位概念: 世界/社会/階級/社会主義/マルクス主義/民主主義/ヒューマニズム] ⇒ C3 [自己欺瞞・自己満足・自己正當化(似非生き甲斐/似非充實感/似非實在感)] 。

【P316上: C"大義名分: 生き甲斐(幕末維新に於ける「國家」の代はり)] / 『安全装置』

「」内が恒存文〔〕( )内は吉野注。

\* 「最も見逃し得ぬ事は、左右を問はぬ、人々の提唱する生き甲斐は人間の利己心(A)と眞向うからぶつかる事を避けてゐる(とは上梓文参照)事である。日本人の高々プラス二程度の新芽に過ぎぬ弱い利己心(A)にしても、それを自覺させぬ様な安全装置(上梓文参照)を生き甲斐と稱して手近な處に求めさせようとしてゐる事である。

それよりは左右いづれにせよ、萬人のうちに潜むプラス二程度の微弱な利己心(A)の存在に氣附かしめ、それ(利己心A)が五にも十にも伸びる可能性(とは「ゆがんだ權力慾/權力思想:A」)を知らしめ、それ(利己心A)を自他に向つて蔽ひ隠すに足る立派な『蓋』[とは否定因(神C): 参照文「神(C)なくして個人の權利(A)を主張し得ない。それをあへてなすことは惡徳である」(『近代の宿命』)]が手近に見當らぬ事を悟らせて愕然とさせるに若(し)くは無い。さもなければ、日本人はいつまでも利己心(A)を大義名分(C")でごまかす偽善(上述: 三つのパターン)から抜け切れぬばかりでなく、社会機構が複雑になり政治、經濟、社交(社会的自我A)を通じて外國人と接觸する機会が多くなるに随つて、手近な大義名分(C")ではごまかし切れぬほどに利己心(A)の方がどうにも手に負へぬ大きなもの[とは: ゆがんだ權力慾/權力思想(A)]になつて行くであらう。